こそあれ、神代より天の下の大號にいへることさらになし、然れば皇國人のいはぬ名を、外國の人の知て名づくべき由あらめやは、此說はもと、近き世に神道者といふものゝ、此おのごろ島を、皇國の本號のごと說なせるによりていへるなり、また倭奴國といふはおのごろ島、おのころ島は丈夫島といふ意なりといふ說は、殊にあたらぬ事なり、こは於と遠と音の異なるをだにもしらぬみだりごとぞかし、

夜麻登といふに、やがて此倭の字をあてゝ書ク事は、いと〳〵古よりのことゝ、見えたり、古事記にもみな此字をかき、又書紀にも、日本と書て夜麻登と訓事は、神代卷に此云耶麻騰と註あれども、倭の字を書るにはかゝる註もなければ、世にあまねく用ひならへることとしられたり、すべて文字は、萬の物の名も何も、もろこしの國のを借用る例なれば、これもかの國より名づけて書る字を、そのまゝに用ひむ事、さもあるべきわざなり、然るを此字嘉號にあらずといひて、嫌ふ人あれども、字の意はいかにもあれ、皇大御國の號となりては、すなはち嘉號なるをや、さて此倭の字、もろこしより名づけたるは、大號のみにて、畿內のやまとをば、皇國人のいへるを聞てかけりとおぼしくて、後漢書魏志などに耶馬臺、隋書、北史などにも耶摩堆といへり、然れども皇國にては、畿內のにも通はして、みな倭の字を用ひたり、

〔日本書紀二十九天武〕三年三月丙辰、對馬國司守忍海造大國言、銀始出于當國、卽貢上、由是大國授小錦下位、凡銀有倭國初出于此時、

〔書言字考節用集一乾坤〕和國（ワコク）異域之書稱日本、曰倭、山海經爲始、

〔國號考〕和の字

和といふは、皇國にて後に改められたる字なり、さる故に、異國の書に、大號に此字を書ることさらになし、思ふにこれは、古より倭の字を用ひ來つれども、もと異國よりつけたる名にして、美字